

令和4年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

第1日目 (1月23日)

“○印”は発表者(または代表者)

民 国 別	発 表 部 門	番 号	課 題 名	所 属	配 属・職 名	氏 名	開 始 時 刻 (目 安)	
国 有 林 の 部	森 林 技 術	1	新しい林業への挑戦 ークラッシャー地拵えの検証ー	北信署	戸隠森林事務所 主事 森林技術指導官	○ ままだ けんご 前田 賢吾 いづつか のぶひと 岩塚 伸人	10:30	
		2	ヒノキコンテナ苗木と下刈省略の組合せによる 初期保育技術の開発	技セン	主事	○ たなはし かずひこ 棚橋 和彦	10:45	
		3	帯状伐採による育成複層林施業について ～伐採幅と植栽木成長の関係～	木曽署	森林技術専門官 係員	○ ないとう たかゆき 内藤 貴幸 うちた な 内田 ゆき奈	11:00	
		4	ブランド材「段戸SAN」の10年間の販売実績を 振り返って	愛知所	主事 総括森林整備官	○ ふなき たける 舟木 武 ○ みやじ さとし 宮路 聡	11:15	
		5	全天球カメラを活用した林況調査業務の効率化 の取組について	中信署	松本森林事務所 首席森林官	○ なんざか ひろかず 南坂 博和	11:30	
		6	姥ナギ沢復旧工事と緑化にむけて ～大崩壊地の復旧を振り返る～	東濃署	係員 治山技術官 中津川治山事業所 治山技術官	○ ほしの ゆうた 星野 裕太 むかいざわ たいき 向澤 大樹 やまぐち はじめ 山口 元	11:45	
	休憩							
	森 林 保 全	7	クマ被害の現状と新たな施業方法の考察 ～高原川流域の獣害対策～	飛騨署	神岡森林事務所 主事 神岡森林事務所 地域統括森林官	○ かわたに りょうた 川谷 亮太 まつい くにひこ 松井 邦彦	13:00	
		8	ブロックディフェンス設置箇所でのニホンジカ捕 獲の取組	南信署	野生鳥獣対策官 下諏訪森林事務所 森林官補	○ いのうえ ともひろ 井上 智広 ○ ごとう れお 後藤 伶央	13:15	
	森 林 ふ れ あ い	9	高山植物等保護パトロール50年の歩み	富山署	立山森林事務所 森林官 森林整備官	○ すみ ゆうすけ 住 裕介 おおた しょうへい 太田 祥平	13:30	
10		森林経営管理制度を踏まえた市町村支援につ いて ～岐阜署における民有林支援の取組～	岐阜署 下呂市	主任地域林政調整官 林務係	○ まつした やすひろ 松下 康弘 ○ こいけ のりかず 小池 徳一	13:45		
休憩								
民 有 林 ・ 学 生 の 部	森 林 保 全	11	水源林造成事業地におけるくくりわなによる誘 引捕獲の結果について	(国研)森林研究・整備機構 森林整備センター 中部整備局 (国研)森林研究・整備機構 森林整備センター 中部整備局 津水源林整備事務所	○ こばやし かおり 小林 佳央理 ○ しみず いつき 清水 樹 ○ おやま たかのり 小山 貴則	14:15		
		12	ヘアトラップを用いた木曽地域のツキノワグマ の集団遺伝学的構造	筑波大学大学院理工情報生命学術院 博士後期課程1年 株式会社環境アセスメントセンター 長野県環境保全研究所 研究員 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 准教授	○ こいど りりこ 小井土 凜々子 やぎゆう まさゆき 柳生 将之 なかむら あすか 中村 明日香 くろえ みさこ 黒江 美紗子 つだ よしあき 津田 吉晃	14:30		
		13	松本市四賀地区、奈川地区における地域住民 による野生動物と獣害対策に対する意識	岐阜大学教育学部 准教授 筑波大学大学院理工情報生命学術院 博士前期課程2年 筑波大学大学院理工情報生命学術院 博士前期課程1年 筑波大学生命環境系 助教	○ はしもと みさお 橋本 操 さきき ゆうり さきき 悠理 はらだ こうた 原田 康多 やました あきお 山下 亜紀郎	14:45		
		14	山野草の保全遺伝学的研究:カンアオイ属ウ スバサイシン節での事例	筑波大学大学院理工情報生命学術院 博士前期課程1年 東北大学植物園 助教 長野県環境保全研究所 主任研究員 東北大学植物園 教授 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 准教授	○ あたらし ますみ 新 真澄 いとう たくろう 伊藤 拓朗 おげき まさあき 尾関 雅章 まき まさゆき 牧 雅之 つだ よしあき 津田 吉晃	15:00		
	森 林 ふ れ あ い	15	長野県木曽郡の森林経営管理制度運営にお ける広域連合の役割	筑波大学大学院理工情報生命学術院 博士前期課程1年 筑波大学生命環境系 准教授 東京農業大学地域環境科学部 助教	○ えだ せいら 江田 星来 たちばな さとし 立花 敏 もぎ こ 茂木 もも子	15:15		
		16	中部森林管理局と取り組む人材育成を見据え た山岳森林教育	筑波大学生命環境系 山岳科学センター菅平高原実験所 准教授	○ つだ よしあき 津田 吉晃	15:30		
会場準備								
国有林の部 講評								

令和4年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

第2日目 (1月24日)

“○印”は発表者(または代表者)

民 国 別	発 表 部 門	番 号	課 題 名	所 属 ・ 職 名 ・ 学 年	氏 名	開 始 時 刻 (目 安)
民 有 林 ・ 学 生 の 部	森 林 技 術	17	晩秋に植栽したヒノキ実生コンテナ苗の活着と状態	岐阜県森林研究所 専門研究員 岐阜県森林研究所 森林環境部長	○ わたなべ ひとし 渡邊 仁志 もてき やすかず 茂木 靖和	9:30
		18	1年生ヒノキ・コンテナ苗の植栽初期の成長に及ぼす元肥の影響	岐阜県森林研究所 森林環境部長 岐阜県森林研究所 専門研究員	○ もてき やすかず 茂木 靖和 わたなべ ひとし 渡邊 仁志	9:45
		19	モバイル型レーザーを用いた幹曲線式の作成	信州大学農学部4年	○ みつかど まいか 光門 舞花	10:00
		20	携帯電話の通信圏外における通信手段確保の取組	岐阜県立森林文化アカデミー 技術課長補佐兼スマート林業推進係長 株式会社JVCケンウッド 上席課長	○ おおしま よしひこ 大島 愛彦 ○ たなか ひでき 田中 秀樹	10:15
休憩・会場準備						
民有林・学生の部 講評(10:45～) / 国有林の部の審査結果発表(11:00～)						

令和4年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

民国別	部門	番号	課題名	所属	発表概要
国 有 林 の 部	森林技術	1	新しい林業への挑戦 -クラッシャー地拵えの検証-	北信森林管理署	平成25年度に中部局で初めて、伐採・造林一貫作業システムを導入して以降、下刈りの省略等、様々な調査・検証を実施している。新たな造林コスト縮減に向けた取組として重機による根株を切削するクラッシャー地拵えについて調査・検証を実施したので、その結果について発表する。
		2	ヒノキコンテナ苗木と下刈省略の組合せによる初期保育技術の開発	森林技術・支援センター	ヒノキコンテナ苗木について、成長促進効果のある緩効性肥料の添加と下刈の省略が苗木成長に及ぼす影響を検討し、肥料添加による成長促進効果が下刈回数削減を可能にするかを検討した。
		3	帯状伐採による育成複層林施業について ～伐採幅と植栽木成長の関係～	木曾森林管理署	平成15年度に林齢74年生の人工林ヒノキを20m、30m、40m幅で帯状伐採し、その後植え込みを行い平成25年度まで成長量等を比較してきた。その後の検証として令和3年度に改めて植栽木の成長量等の調査を実施したので結果を中間発表する。
		4	ブランド材「段戸SAN」の10年間の販売実績を振り返って	愛知森林管理事務所	林齢が100年を超える段戸国有林の林分から生産された良材はブランド材「段戸SAN」として販売されている。ブランド化から約10年間の販売実績を振り返り、今後の施業の一助とする。
		5	全天球カメラを活用した林況調査業務の効率化の取組について	中信森林管理署	全天球カメラと簡易林内計測ツールⅡ(日林協:フリーソフト)を使用した林況調査方法と従来の標準地調査方法との比較を行い、全天球カメラを活用した林分調査を実施するための操作方法や課題等の取りまとめを行ったので報告する。
		6	姥ナギ沢復旧工事と緑化にむけて ～大崩壊地の復旧を振り返る～	東濃森林管理署	平成7年から実施している湯舟沢国有林の4.97haの大崩壊地について復旧工事の経過等を振り返ると共に工事施工に活用した建設ICTによるドローンの土量測量や発注者と受注者を繋ぐ情報共有システムの有効性について考察した。
	森林保全	7	クマ被害の現状と新たな施業方法の考察 ～高原川流域の獣害対策～	飛騨森林管理署	クマの樹皮剥ぎによる立木の立ち枯れ進行箇所での未立木地化対策として、高原川流域のクマ被害の現状と新たな施業方法の考察について発表する。
		8	ブロックディフェンス設置箇所でのニホンジカ捕獲の取組	南信森林管理署	皆伐箇所既設作業道にシカの歩いた形跡があったため令和2年にブロックディフェンスを試行的に設置した。当該箇所において行ったニホンジカ捕獲の取り組み結果や考察を発表する。
	森林ふれあい	9	高山植物等保護パトロール50年の歩み	富山森林管理署	立山・黒部アルペンルート全線開通(昭和46年6月)に伴い、山小屋関係者等の協力のもと国有林野保護管理協議会を発足させ、昭和47年度から実施している高山植物等保護パトロールが50年の節目を迎えたことから活動内容について報告する。
		10	森林経営管理制度を踏まえた市町村支援について ～岐阜署における民有林支援の取組～	岐阜森林管理署 下呂市	森林経営管理制度や森林環境譲与税などが導入され、市町村による一層の森林整備への取り組みが期待されているが、地元市町村がこの制度を有効活用できるよう岐阜森林管理署が行った民有林への支援・連携の取組を発表する。

令和4年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

民 国 別	部 門	番 号	課 題 名	所 属	発 表 概 要
民 有 林 ・ 学 生 の 部	森 林 保 全	11	水源林造成事業地におけるくくりわなによる誘引捕獲の結果について	(国研)森林研究・整備機構 森林整備センター中部整備局 〃 津水源林整備事務所	シカの生息密度の高い三重県内及び愛知県内の一部の水源林造成事業地において、くくりわなによる誘引捕獲を試行的に実施している。捕獲頭数や捕獲した事による植生の変化等についての報告する。
		12	ヘアトラップを用いた木曽地域のツキノワグマの集団遺伝学的構造	筑波大学大学院理工情報生命学術院 株式会社環境アセスメントセンター 長野県環境保全研究所 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所	長野県木曽地域のツキノワグマの遺伝的多様性および構造についてヘアトラップを用いて遺伝解析した研究事例を紹介する。
		13	松本市四賀地区、奈川地区における地域住民による野生動物と獣害対策に対する意識	岐阜大学教育学部 筑波大学大学院理工情報生命学術院 筑波大学生命環境系	本研究は、松本市四賀地区、奈川地区でアンケート調査を実施し、地域住民の野生動物と獣害対策に対する意識について明らかにした。調査結果から、集落の社会的特徴が異なることが野生動物と獣害対策への意識、対策状況に関係していることが示された。
		14	山野草の保全遺伝学的研究:カンアオイ属ウスバサイシン節での事例	筑波大学大学院理工情報生命学術院 東北大学植物園 長野県環境保全研究所 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所	昨今、SDGsやCOP15など、社会的にも生物多様性を重要視する動きが高まっている。生物多様性維持や観光資源などの価値を持つ山野草およびその地域系統の保全について、ウスバサイシン節の植物を例としながら考える。
	森 林 ふ れ あ い	15	長野県木曽郡の森林経営管理制度運営における広域連合の役割	筑波大学大学院理工情報生命学術院 筑波大学生命環境系 東京農業大学地域環境科学部	森林経営管理制度の運用において、全国で唯一広域連合の組織内に設置した新部署(森林整備推進室)を活用している木曽郡6町村を対象に聞き取り調査を行い、連携構造と導入による各主体の役割を明らかにした。
		16	中部森林管理局と取り組む人材育成を見据えた山岳森林教育	筑波大学生命環境系山岳科学センター菅平高原実験所	中部森林管理局、東信森林管理署、東信木材センター、地域団体等の協力の下、実施した山岳科学フィールド実習Aの報告をするとともに、現場重視の大学院レベルの山岳、森林教育について議論する。
	森 林 技 術	17	晩秋に植栽したヒノキ実生コンテナ苗の活着と状態	岐阜県森林研究所	少雪寒冷地域において晩秋にヒノキ・コンテナ苗を植栽し、苗の状態と活着率を評価した。活着率は標高(610~1200m)が高くなるにつれ100%~0%まで低下、または生存していても下枝の枯れが顕著であった。
		18	1年生ヒノキ・コンテナ苗の植栽初期の成長に及ぼす元肥の影響	岐阜県森林研究所	元肥条件の異なる1年生ヒノキ・コンテナ苗を現地植栽し、隣接地に植栽した裸苗との成長を比較した。植栽1年目の樹高成長量は裸苗より大きい傾向にあり、元肥条件によっては有意差が認められた。
		19	モバイル型レーザーを用いた幹曲線式の作成	信州大学農学部	モバイル型レーザー計測により取得した幹直径データを用いて幹の細りを表す幹曲線式を作成し、任意の高さの幹直径の推定を行った。現地調査での実測値との精度検証を行い、その有用性を検討した。
		20	携帯電話の通信圏外における通信手段確保の取組	岐阜県立森林文化アカデミー 株式会社JVCケンウッド	携帯電話の通信圏外でも利用できる通信手段を比較検討し、トランシーバーの電波と既存のアプリを活用してチャット、緊急通報、位置情報以外に音声通話も可能とする優れたシステムを導入したのでその事例報告する。